

タブレットを活用した『ため池点検システム』について紹介します。

今回紹介する団体：水土里ネット山口

取組概要

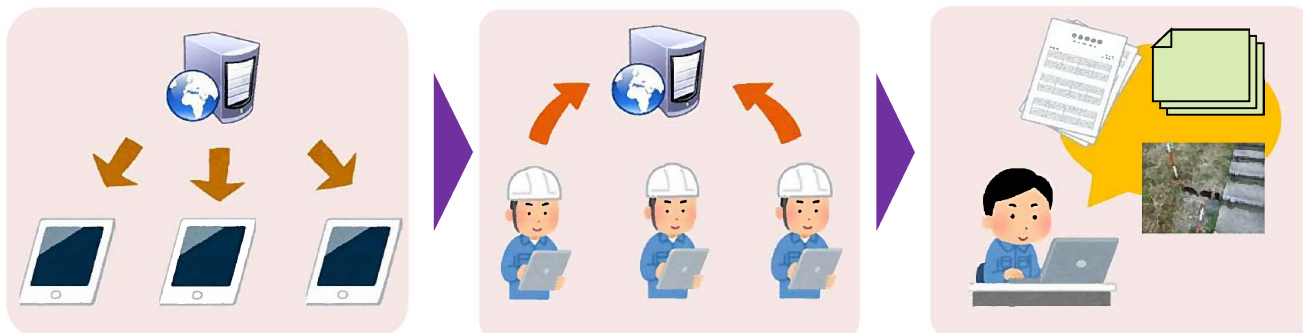
内容：山口県内の「防災重点農業用ため池」(約1,300箇所)の現地点検について、水土里情報システムに搭載の「ため池データベース」や地図情報と連動したタブレット端末(点検アプリ)を活用し、作業の効率化を図る。

経緯：毎年、梅雨期前に関係者(県、市町、ため池サポートセンター、管理者等)で老朽化が確認された防災重点農業用ため池の「点検パトロール」を実施

従来は紙の点検票の準備、デジカメ写真の整理、EXCEL等による点検結果の集約に多大な労力を要し、情報の蓄積や共有、活用の面で課題

●点検準備、データ集約・活用の流れ

- ①共有サーバから調査票や資料を事前に**ダウンロード** ②点検終了後、共有サーバへデータを**アップロード** ③ため池データベースに集約、**点検集計システム**の活用



●ため池点検システム

- 点検対象ため池の位置、基本情報が**地図及びリスト**で表示されます。
- 現地で点検する**ため池を選択**し、
①**点検票入力**、②**写真撮影**、③**略図作成**、④**資料活用**ができます。
- 現地で作成登録した資料は、すべて**各ため池に紐付け**されます。
- その日の点検終了後、サーバに**アップロード**します。

①ため池点検票入力

The screenshot shows a web-based form titled 'ため池点検表'. It has input fields for '名称' (Name), '所在地' (Location), and '点検年月日' (Inspection Date). Below these is a checklist of inspection items with checkboxes. Some items are checked, such as '点検票入力' (Form input), '写真撮影' (Photo), and '漏水あり' (Leakage present).

②写真撮影



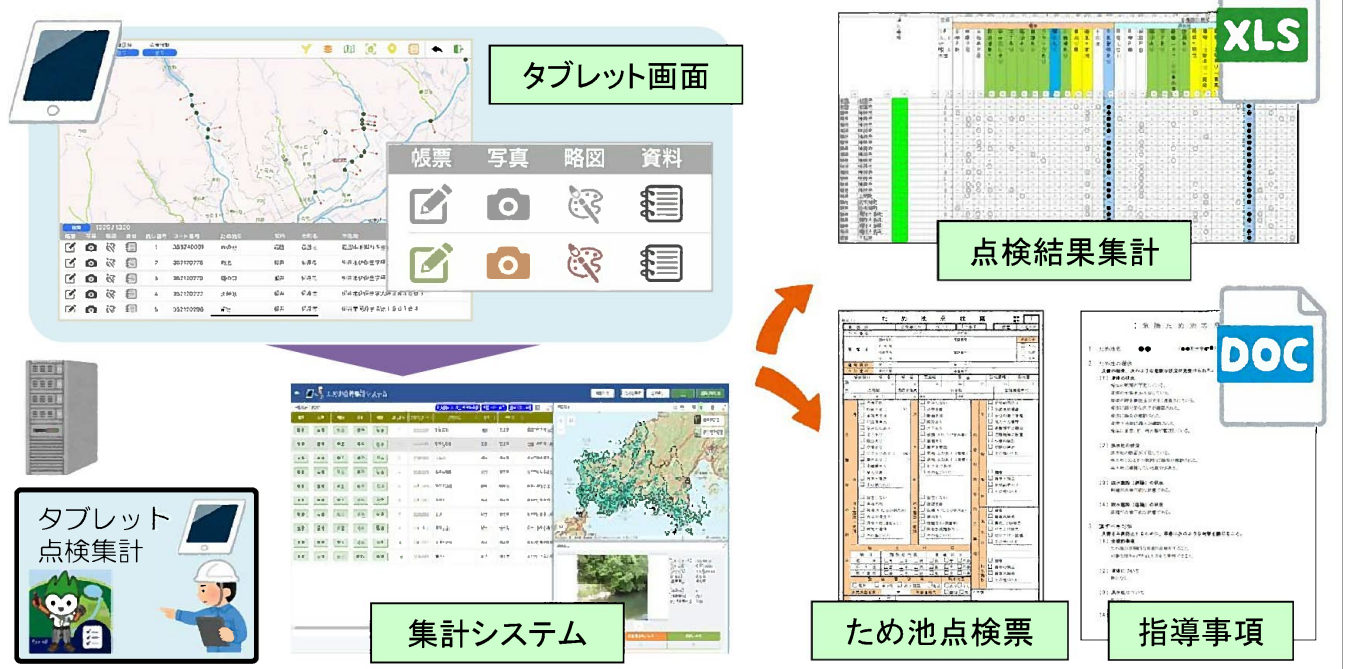
③略図作成



④資料活用



ため池点検システム(タブレット)と共有サーバ



取組による効果

- ・ため池データベースとの連動により、**事前の点検票(紙ベース)の準備が不要**
- ・管理指導に係る**各種資料の準備が不要**
(点検マニュアル、ハザードマップ、緊急連絡体制表等をタブレット内に格納)
- ・点検票、写真など、ため池ごとに**自動で紐付け、ファイル整理が不要**
【従来:ため池ごとの整理に15分 ⇒ 導入後:不要(自動整理)】
- ・全ため池の点検結果を一括で集約し、**通知資料等の作成スピードがアップ**
【従来:点検結果の集約に1週間 ⇒ 導入後:不要(自動集計)】
- ・点検結果をサーバへ登録・蓄積することにより、関係者で**情報を共有**

今後の活用予定

- ・防災重点農業用ため池だけでなく、全ての農業用ため池に対応予定
- ・ため池サポートセンターによる管理者への相談対応、情報提供、技術的指導への活用

GISシステムのバージョン情報

ArcGIS Enterprise Advanced Ver.10.8.1
ArcGIS Desktop Standard Ver.10.8.1

■お問い合わせ先

山口県土地改良事業団体連合会 事業部情報管理課 083-933-0041